

2012年12月期第2四半期決算説明会



2012年8月30日
中央化学株式会社
(JASDAQ スタンド:7895)

(Ⅰ) 2012年12月期第2四半期 決算実績

(Ⅱ) 2012年12月期 決算見通し

(Ⅲ) 今後の展望

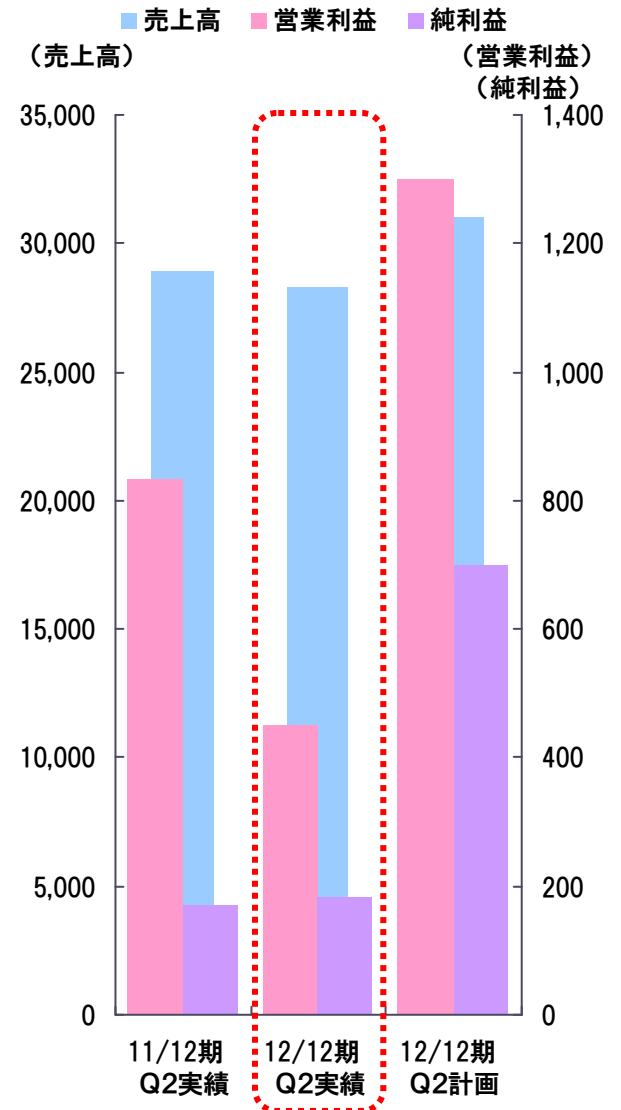
(I) 2012年12月期第2四半期 決算実績

 中央化学株式会社

12/12期第2四半期決算の実績

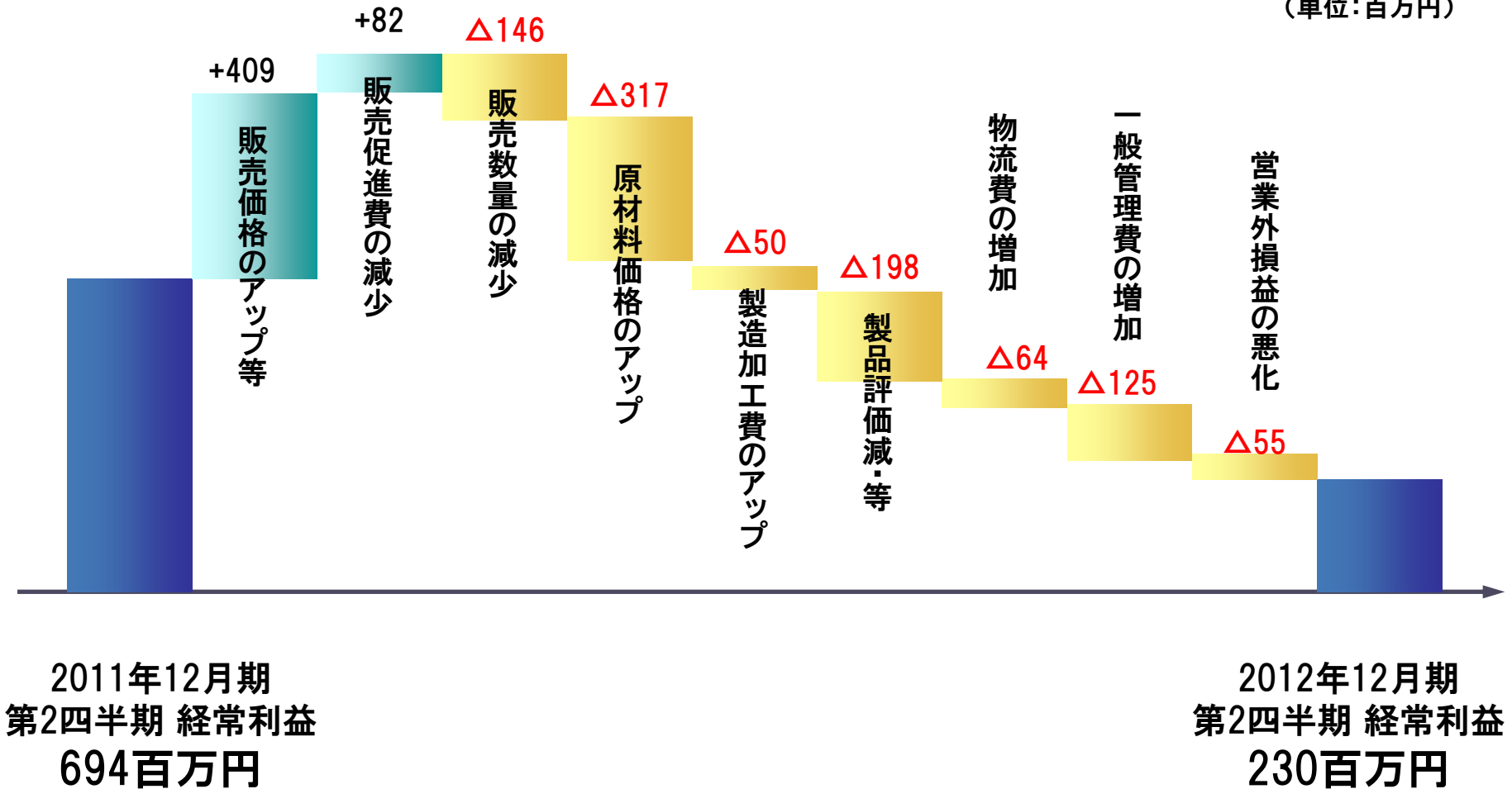
(単位:百万円)

	11/12期	12/12期			
	第2四半期 実績 (構成比)	第2四半期 実績 (構成比)	前期比	第2四半期 期初計画 (構成比)	達成率
売上高	28,906 (100%)	28,275 (100%)	△2.2%	31,000 (100%)	91.2%
売上 総利益	6,568 (22.7%)	6,095 (21.6%)	△7.2%	7,450 (24.0%)	81.8%
営業利益	833 (2.9%)	452 (1.6%)	△45.7%	1,300 (4.2%)	34.8%
経常利益	694 (2.4%)	230 (0.8%)	△66.8%	1,000 (3.2%)	23.0%
四半期 純利益	171 (0.6%)	184 (0.7%)	8.0%	700 (2.3%)	26.3%



経常利益の増減分析

(単位:百万円)

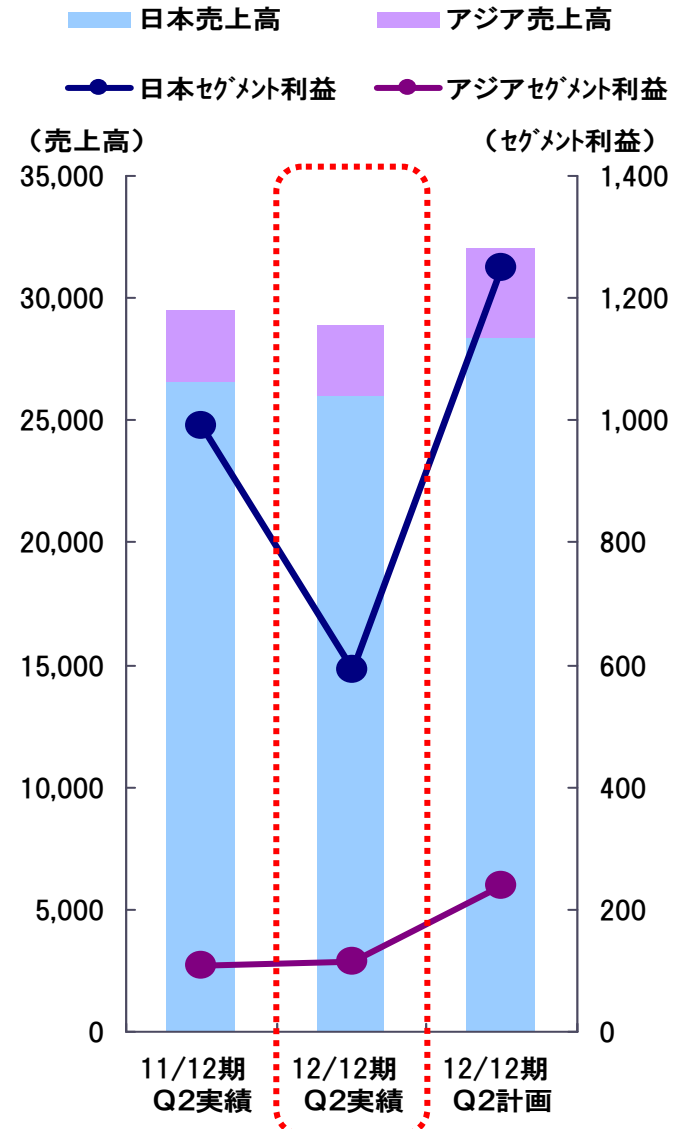


報告セグメントの売上高と利益

(単位:百万円)

		11/12期	12/12期			
		第2四半期実績	第2四半期実績	前期比	第2四半期期初計画	達成率
日本	売上高	26,592	25,976	△2.3%	28,360	91.6%
	セグメント利益	990	591	△40.3%	1,250	47.3%
アジア	売上高	2,954	2,886	△2.3%	3,680	78.4%
	セグメント利益	107	116	8.4%	240	48.3%

※ セグメント利益(営業利益)



貸借対照表の実績

中央化学株式会社 7
(単位:百万円)

	11/12末	12/06末	増減額	主な増減要因
流動資産	30,801	26,057	△4,744	
現金及び預金	7,902	4,476	△3,426	短期借入圧縮
受取手形及び売掛金	13,111	10,789	△2,322	(季節要因による減)
商品及び製品	5,310	6,679	1,369	製品在庫増
固定資産	20,544	20,294	△250	
有形固定資産	17,992	17,719	△273	投資792、償却▲1,048
(リース資産・純額)	(2,700)	(2,622)	(△78)	
無形固定資産	395	393	△2	
投資その他の資産	2,157	2,181	24	
資産合計	51,345	46,352	△4,993	
負債合計	36,438	31,247	△5,191	
有利子負債残高	16,303	12,430	△3,873	短期借入圧縮
(リース債務)	(2,909)	(2,829)	(△80)	
純資産合計	14,907	15,104	197	(自己資本比率:29.0%⇒32.6%)
負債純資産合計	51,345	46,352	△4,993	

キャッシュフローの実績

(単位:百万円)

	11/12期 第2四半期	12/12期 第2四半期	12/12期第2四半期の主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	1,585	1,322	税引前利益 252、減価償却費 1,075、 売上債権の減少 2,355、棚卸資産の増加 1,350、 仕入債務の減少 1,122
投資活動による キャッシュ・フロー	△201	△519	固定資産の取得 546
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,311	△4,240	長期借入金の増加 10,000、短期借入金減少 13,089、 長期借入金返済 786、リース債務の返済 364
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△15	11	
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	57	△3,426	
現金及び現金同等物の 期首残高	6,100	7,902	
現金及び現金同等物の 期末残高	6,158	4,476	

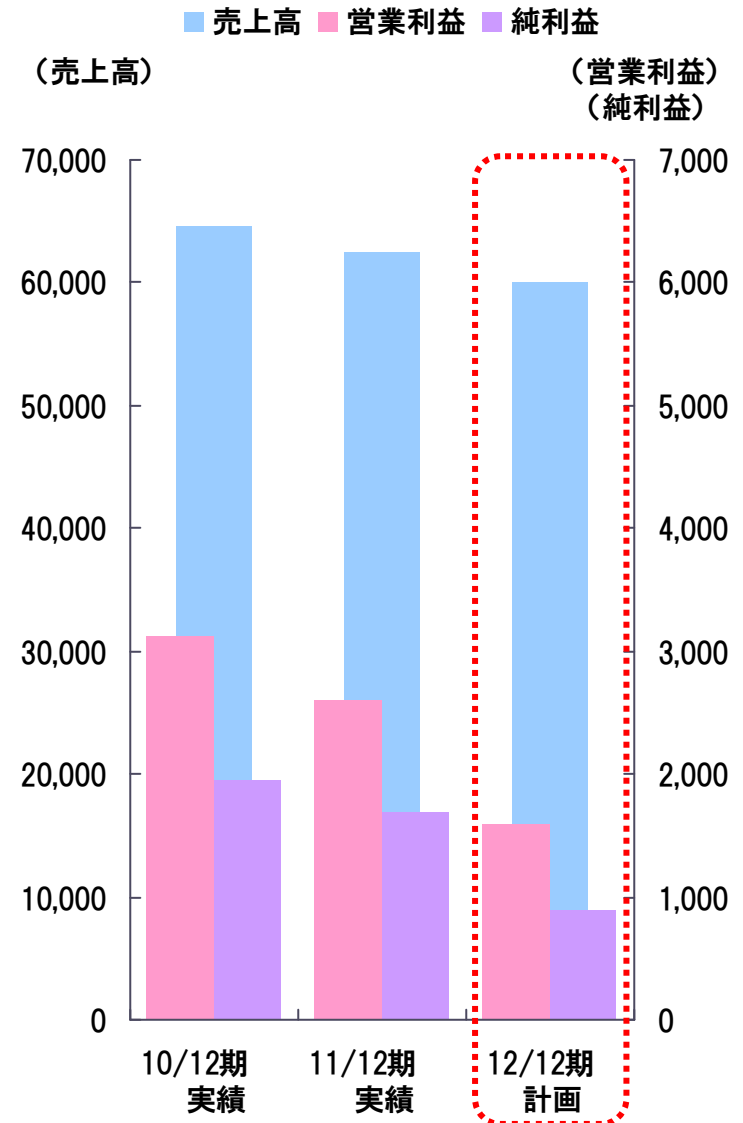
(Ⅱ) 2012年12月期 決算見通し

 **中央化学株式会社**

12/12期決算の見通し

(単位:百万円)

	10/12期	11/12期	12/12期	
	実績 (構成比)	実績 (構成比)	計画 (構成比)	前期比
売上高	64,699 (100%)	62,480 (100%)	60,000 (100%)	△4.0%
売上 総利益	15,085 (23.3%)	14,060 (22.5%)	13,300 (22.2%)	△5.4%
営業利益	3,129 (4.8%)	2,610 (4.2%)	1,600 (2.7%)	△38.7%
経常利益	2,391 (3.7%)	2,321 (3.7%)	1,200 (2.0%)	△48.3%
当期 純利益	1,961 (3.0%)	1,686 (2.7%)	900 (1.5%)	△46.6%



※ 2012年12月期の計画は8/9に発表した修正値です。

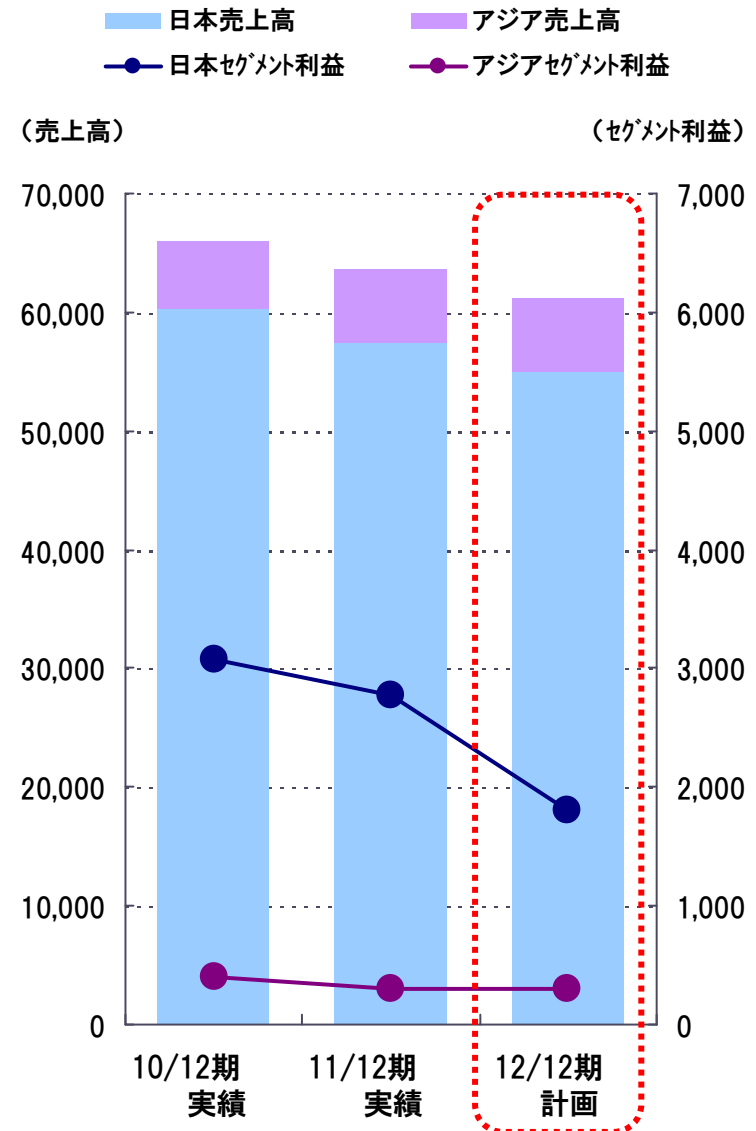
報告セグメントの売上と利益

中央化学株式会社 11

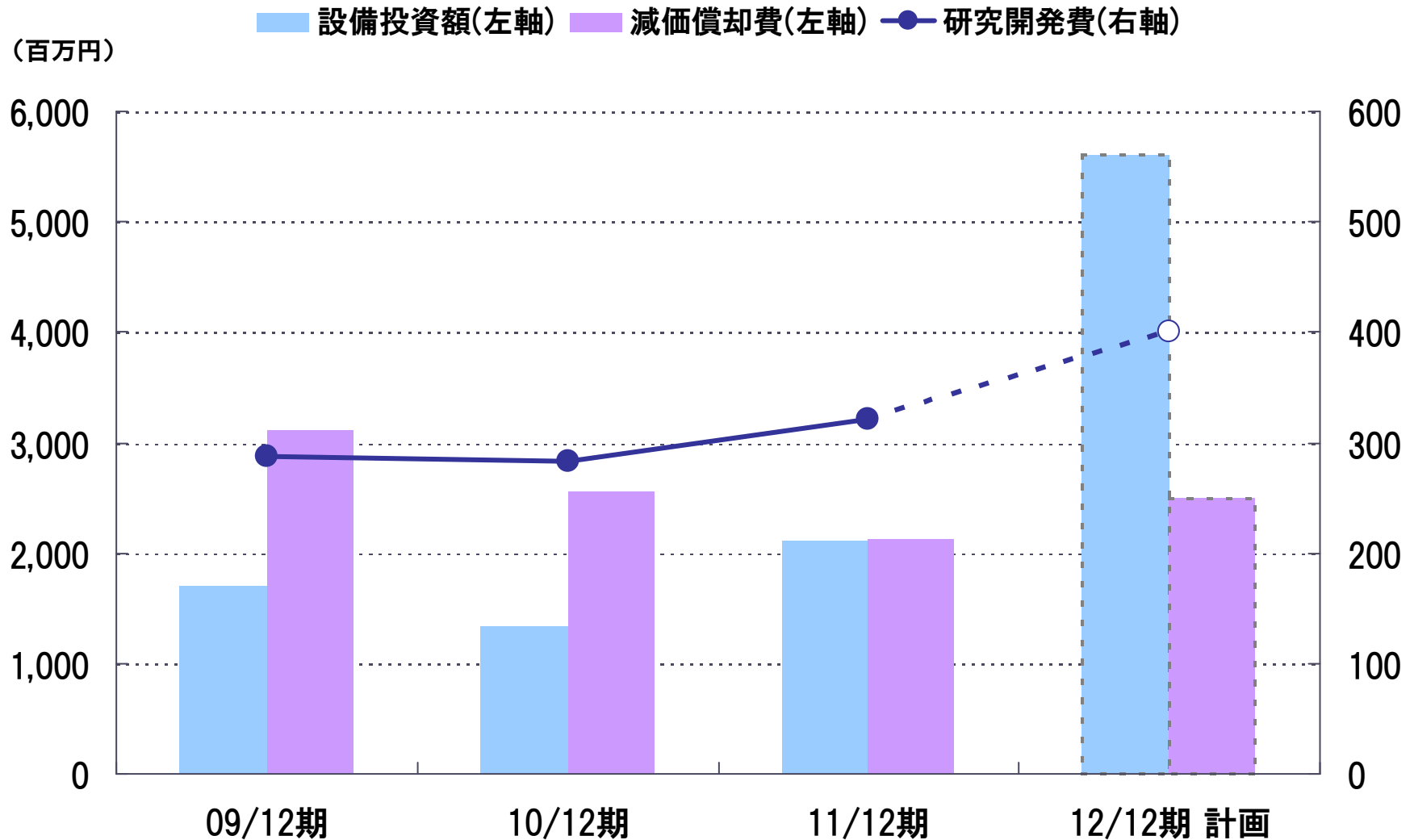
(単位:百万円)

		10/12期	11/12期	12/12計画	
		実績	実績	計画	前期比
日本	売上高	60,239	57,443	55,000	△4.3%
	セグメント利益	3,069	2,769	1,800	△35.0%
アジア	売上高	5,704	6,260	6,200	△1.0%
	セグメント利益	394	303	305	0.7%

※ セグメント利益(営業利益)



設備投資、減価償却及び研究開発の状況



(Ⅲ) 今後の展望

 中央化学株式会社

今後の展望

1.	経営施策(日本) ①新市場の創造と新規顧客の開拓
	〃 ②売上拡大への支援体制の整備
	〃 ③TOBによるシナジー効果の追求
2.	経営施策(中国) ①新しい統括体制の確立
	〃 ②生産供給体制の整備
3.	製品戦略 ～基本コンセプト～
4.	〃 ～素材選択～
5.	〃 ～安全・安心～
6.	〃 ～製品開発～
7.	〃 ～リサイクル～
8.	「日本一の食品包装容器メーカー」の再興

1. 経営施策(日本) ①新市場の創造と新規顧客の開拓

東京
オフィス

提案型
営業の
強化

☆ユーザー基点の営業活動を推進
☆8/21～ 4大都市で商談会を開催
“食卓ソリューション”「価値ある一皿」を提案

新素材
新製品

新市場の
創造

☆素材特性を活かした差異化戦略
☆ミドル・ハイエンドの新市場を創造

三菱商事
のネット
ワーク

新規顧客の
開拓

☆三菱商事関連企業にアプローチ

売
上
の
拡
大

1. 経営施策(日本) ②売上拡大への支援体制の整備

積極的な
R&Dの
推進

開発力の
強化

- ☆既存素材の高機能化
- ☆新たな高機能素材の開発

新製品・
新素材
生産ラインの新設

高機能
製品の
増産

- ☆東西2拠点の量産体制の確立
- ☆予定通り進捗する設備投資

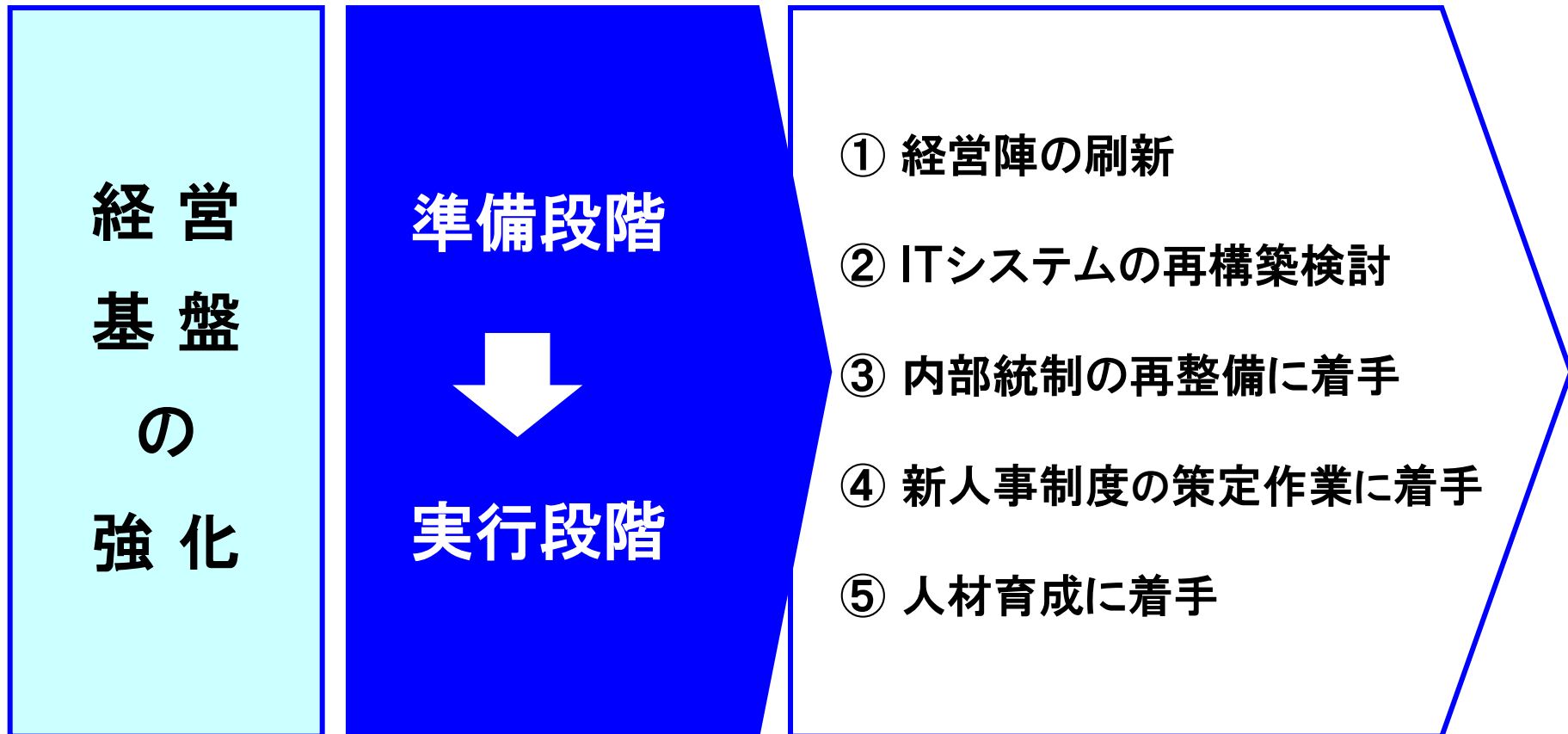
積極的な
設備投資

コスト
競争力の
強化

- ☆新規設備導入により
需給アンバランスの解消
- ☆梱包、包装ラインの省人化設備の
導入着手

設備・研究開発投資
48億円
(前年比2.5倍)

1. 経営施策(日本) ③TOBによるシナジー効果の追求



三菱商事の経営資源を活用

2. 経営施策(中国) ①新しい統括体制の確立

環菱中央化学管理有限公司

(当社100%出資の統括会社)

海城

北京

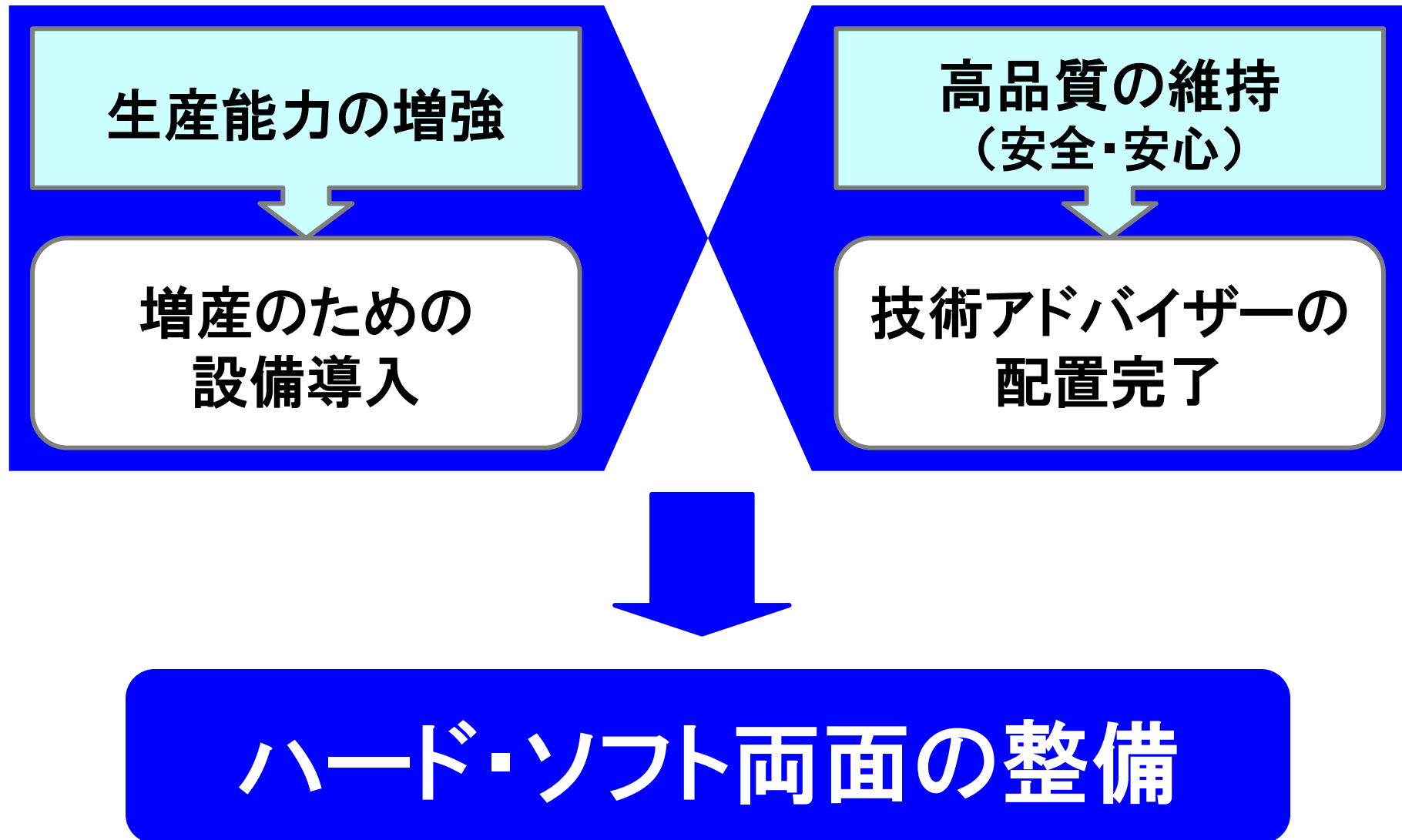
上海

無錫

東莞

効率経営による競争力強化

2. 経営施策(中国) ②生産供給体制の整備



3. 製品戦略

基本コンセプト

時代のニーズに即したオリジナルの製品開発

素材
選択

安全性
低環境負荷

☆ポリオレフィン素材(PP、PPF)
<発泡スチロール素材(PSP)>

安全・
安心

製品の
衛生安全

☆原材料の安全性確保

製品
開発

環境配慮型
の設計

☆省資源 ☆軽量化
☆単一素材 ☆発泡素材

リサイ
クル

経済合理性

☆マテリアルリサイクル
☆ケミカルリサイクル
☆エネルギーリカバリー

ベスト
ミックス

「ト」に「優」しい食品包装容器の提供

4. 製品戦略 ～素材選択～

ポリオレフィン
素材(PP、PPF)
の選択

☆機能性
☆環境適正
☆安定性

発泡スチロール
素材(PSP)
の選択

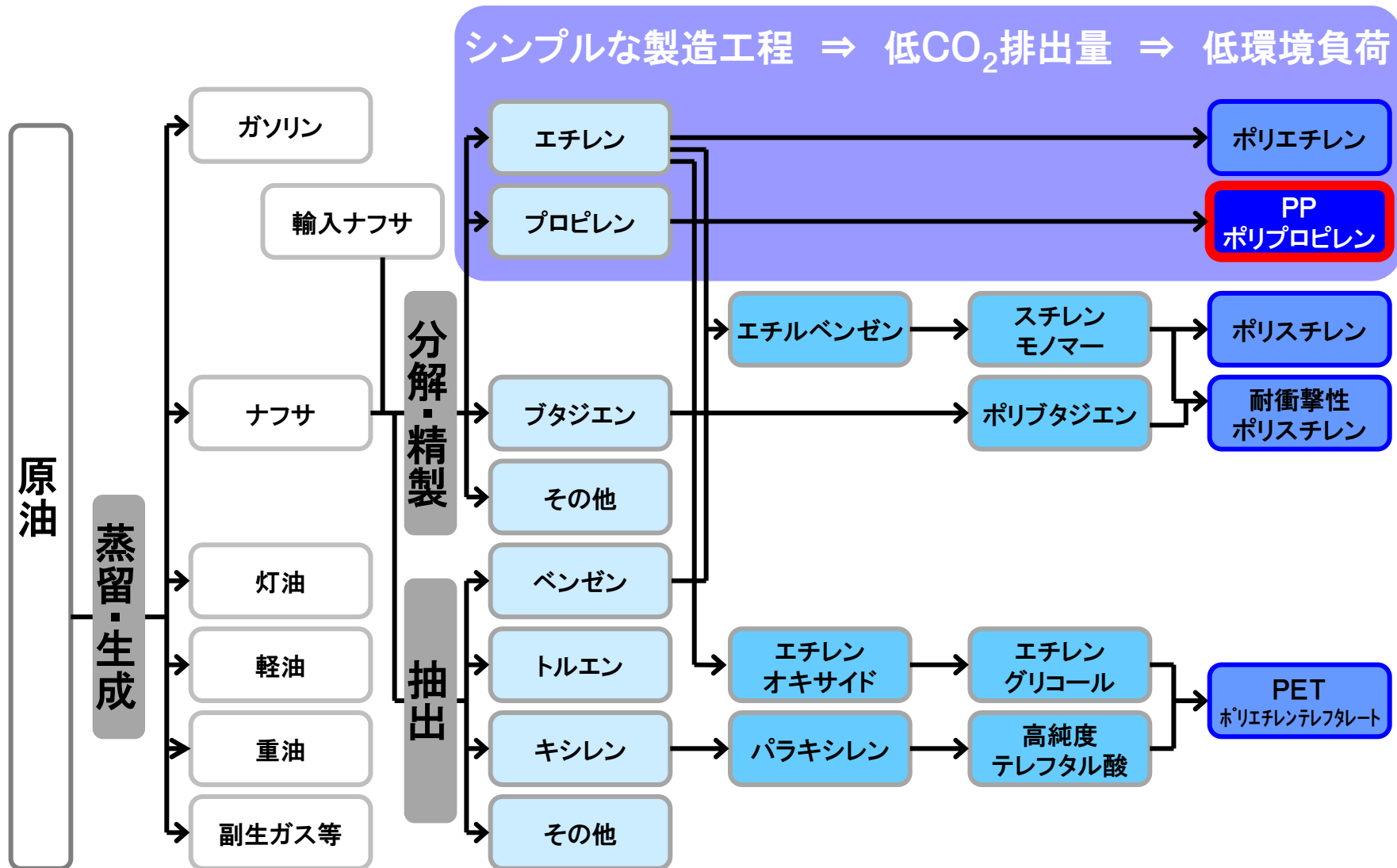
☆省資源
☆経済性

食品容器の
素材として最適

4. 製品戦略 ～素材選択～「機能性のバランスに優れた素材」

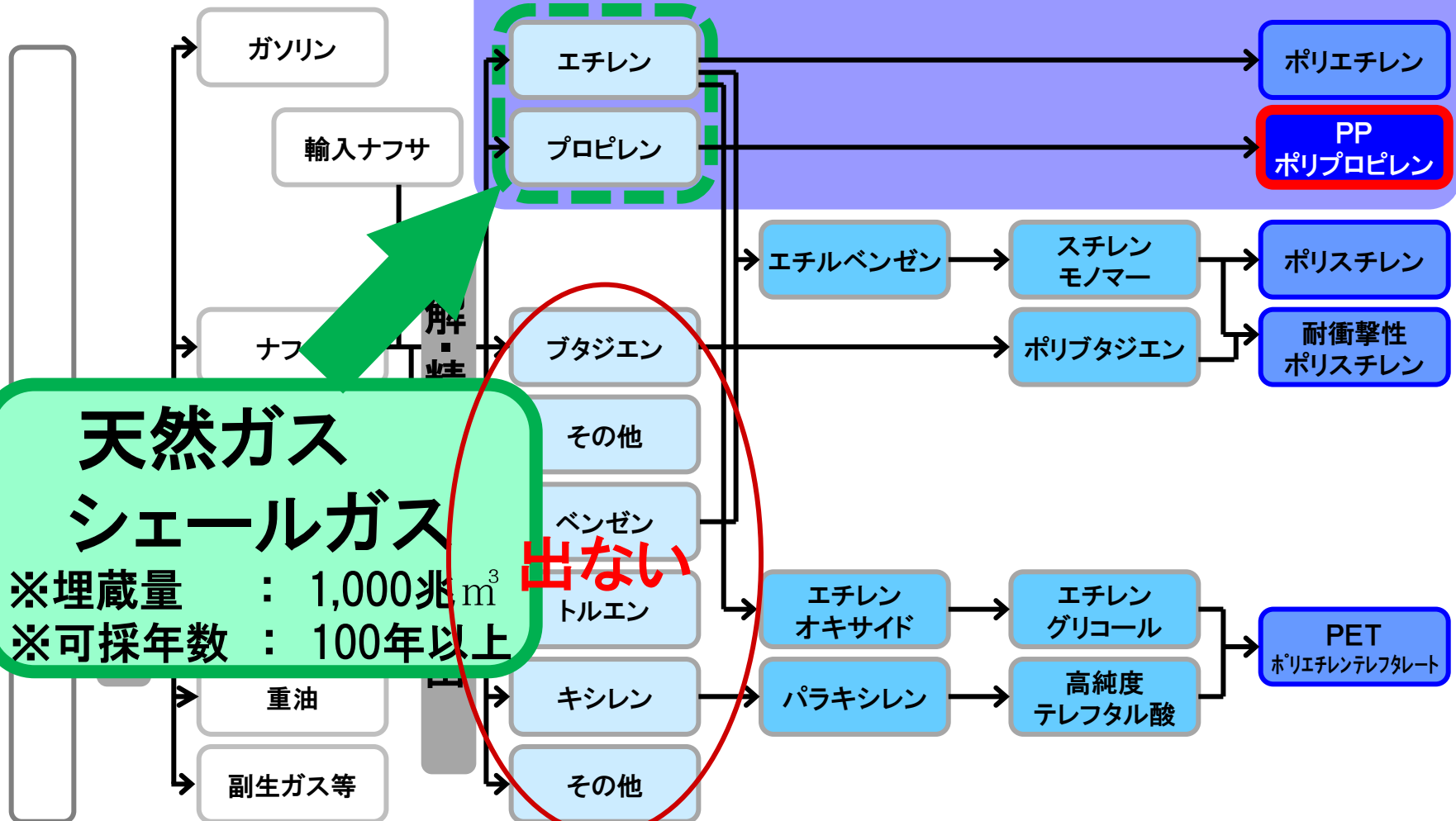
	耐熱性	耐油性	剛性	耐衝撃性
PE(ポリエチレン)	○	◎	△	◎
PP(ポリプロピレン)	◎	◎	○	◎
PS(ポリスチレン)	○	×	◎	×
PET(ポリエチレンテレフタレート)	×	◎	◎	○

4. 製品戦略 ~素材選択~「生産工程が短いポリオレフィン」



4. 製品戦略 ~素材選択~「安定調達可能素材」

シンプルな製造工程 ⇒ 低CO₂排出量 ⇒ 低環境負荷



5. 製品戦略 ～安全・安心～「創業以来変わらない理念」

3段階の厳しい基準を遵守し、製品の衛生安全性を確保

自社基準

「自己責任」

業界の自主基準

「素材別基準」

ポリオレフィン等衛生協議会の自主基準(PL)

法令、公的基準

「包括的な基準」

食品衛生法、食品安全基本法、厚生省告示第370号

5. 製品戦略 ～安全・安心～「再生プラスチックの安全性に関する指針」

中央化学株式会社 26

バージン
プラスチック
食品容器

法令・公的基準が整備

- ☆食品衛生法
- ☆業界自主基準

安全の保証体制
が機能

再生
プラスチック
食品容器

規制・基準がない

- ☆法令・自主基準は再生品を
想定していなかった

リサイクル過程で
生じた未知の
不純物汚染の懸念

「食品用器具及び容器包装における
再生プラスチック使用に関する指針」


2012年4月27日厚生労働省医薬食品安全部長(通知)

当社はバージン材を使用

6. 製品戦略 ~製品開発~「環境に配慮した製品設計」

設計段階から環境対応を意識した製品開発

薄肉化



軽量化

SD PPF



821g 1254g

同じ強度

省スペース+輸送効率

同じ形状の容器を25枚重ねた高さ


90mm 230mm

SD PSP

環境配慮型製品設計

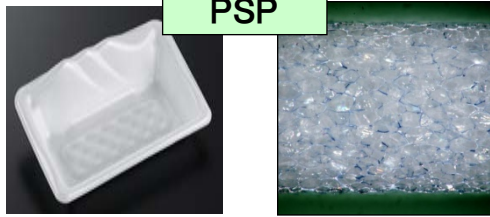
単一素材

SD SPP



発泡品

PSP



6. 製品戦略 ～製品開発～「自社内一貫開発・生産体系」

新製品『スマートシリーズ』の開発

環境負荷が少ないPP素材で製品開発

素材集約による生産工程の効率化

スマートダッシュ
(SD)

断熱積層発泡素材



スマートPP
(SPP)

高透明PP素材



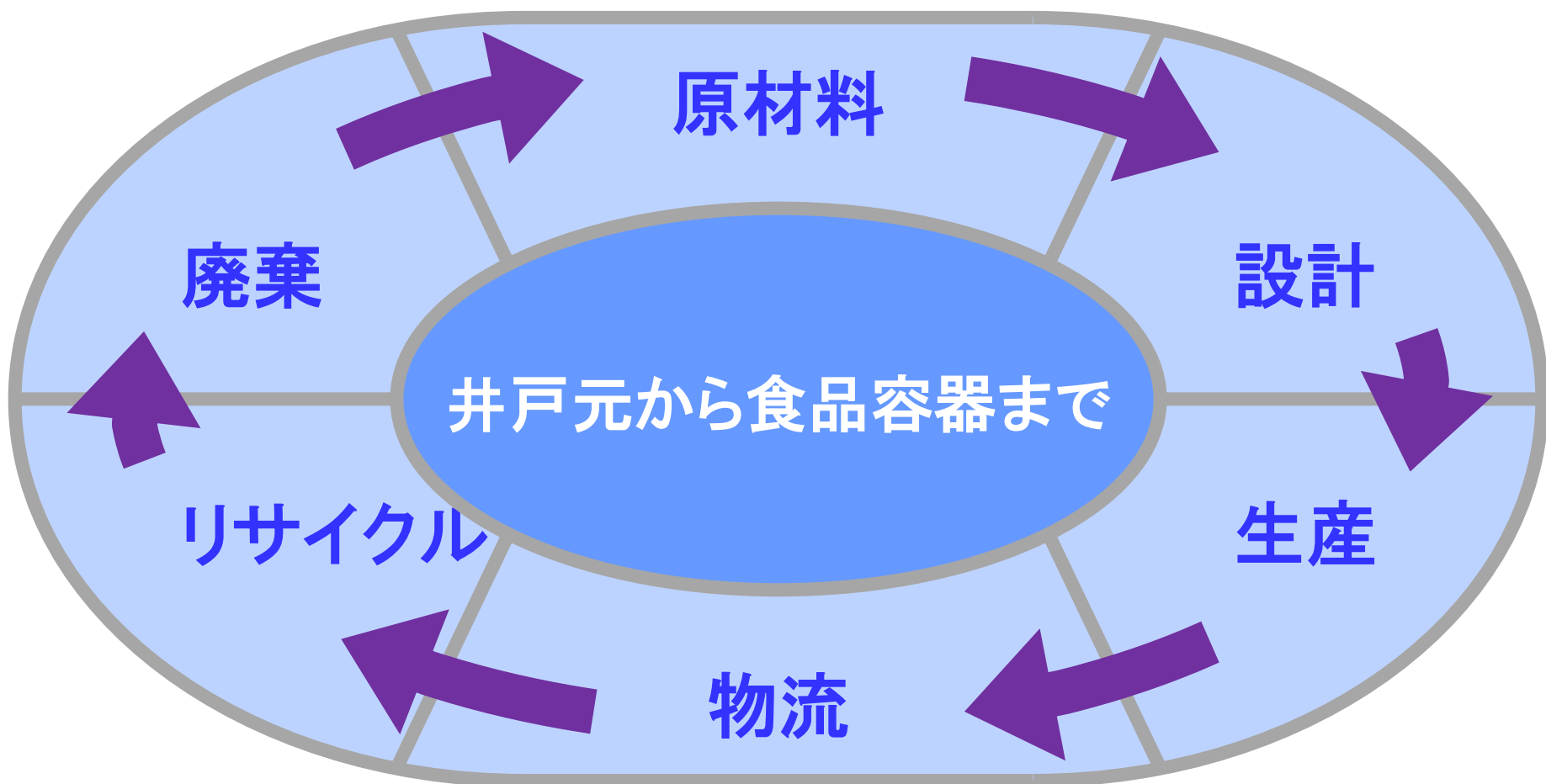
スマートCT
(SCT)

薄肉PPF素材



6. 製品戦略 ~製品開発~

LCA(ライフサイクルアセスメント)に基づく環境負荷低減



7. 製品戦略 ～リサイクル～「食品容器メーカーとしての自主的取り組み」

衛生安全性
の確保

循環型リサイクル
の構築

経済性の確保

当社のリサイクル三原則

7. 製品戦略 ～リサイクル～「リサイクル手法のベストミックスを提案」

	手法	回収品目	衛生安全性 再生品の	循環型社会 への適応	消費者の理解	経済合理性
マテリアル リサイクル 	非食品用途の プラスチック製品 に活用	PSPトレー のみ	×	○	◎	△
ケミカル リサイクル 	化学的に分解して 化学原料に再生	全ての プラスチック 食品容器	◎	◎	○	△
エネルギー リカバリー 	燃料化	全ての プラスチック 食品容器	—	熱源 として 回収	△	○

8. 「日本一の食品包装容器メーカー」の再興

ライフサイクルアセスメントに基づくモノ作り

素材選択

安全・安心

製品開発

リサイクル

「優」環境

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。